2021年11月　VOL. 74

CHILDREN'S VOICES

ICAN NEWS LETTER

2021年前期を振り返って

アイキャン事務局長
葎　健太郎

2021年10月末、アイキャンが活動するフィリピンとジブチの新型コロナウイルスの１日平均感染者数とワクチン接種率は、フィリピン：4,625人／22.2%、ジブチ：7人／2.6%です。全世界のワクチン接種率38.3%と比較すると低い状況にありますが、1日平均人数のピーク時と比べれば、フィリピンは22% 、ジブチは4%と大幅に減っています。とは言え、日本も含め感染再拡大を抑えるためにも、これまで通り感染予防対策は必須です。

フィリピンでは、新型コロナウイルス感染拡大の影響により困窮状態に陥った路上の青少年や貧困地域の住民に対し、協同組合「カリエ」のメンバーと協働しコミュニティパントリーを通し、食糧及び衛生用品を提供しています。ジブチでは、難民キャンプが子どもにとって安全な環境になるように、保護者に対して実施している啓発活動研修を通し、アイキャンスタッフが感染予防対策の普及に携わっています。

2021年、アイキャンが掲げる活動のメインテーマは、フィリピンでは、『路上教育活動の見直しと改善を行い、路上で生活をする子どもたちの疾病予防、及び保護を強化する』『元路上で暮らしていた子どもたちが運営する協同組合「カリエ」が、路上で生活する青少年の「参加する権利」を守る場として機能することを目指す』『身寄りのない子どもたちが住む児童養護施設「子どもの家」の自立支援機能の強化を目指す』『マニラ最貧困地域トンド地区の住民を組織化し、栄養不良の子どもの栄養改善を図る』とし、ジブチでは、『全難民キャンプにおける「子どもの保護」活動を継続しつつ、キャンプ外の難民受け入れ地域住民への介入を強化する』を目指し活動中です。

今後も、子どもたちが安心・安全に暮らせ自立した生活を送れるよう活動を続けてまいりますので、何卒変わらぬ応援をよろしくお願いいたします。

活動ダイジェスト｜
2021年5月～10月のアイキャンの活動

1. フィリピン共和国

＜首都マニラ近郊＞

- 最貧困地区である「トンド地区」の3歳から5歳の子ども75名に対して114回の給食を提供し、延べ4,409名が栄養価の高い食事を取ることができました。
- ごみ処分場周辺の「パヤタス地区」の住民組織に対して、財務管理・内部統制・現地マーケットの開拓に関する助言を1回行いました。
- 児童養護施設「子どもの家」では、新たに11名を受け入れ、2名が卒業し、合計18名の子どもが安心・安全な環境で、学校教育を受け、生活することができました。また、サンマテオ町のロータリークラブとの関係を構築し、歯磨きに関する研修の実施や、栄養価の高いモリンガの木を「子どもの家」の敷地内に植える等の活動を一緒に行いました。

- 元路上の子どもたちによる協同組合「カリエ」のメンバー9名を対象に、オンライン販売に関する研修を2回実施しました。また、現地の他の協同組合によるバナナチップス製作研修に、10名のカリエメンバーが参加しました。
- 「子どもの家」の17名の子どもが、ブルーメントリット地区の路上で生活する子ども12名に対して、子どもの権利に関する研修をオンラインで実施しました。また、アイキャンスタッフが、ブルーメントリット地区とエスコルタ地区の合計31名の路上の子どもを対象に、SDGsに関する研修を実施しました。

＜新型コロナウイルスへの対応＞

- マニラ首都圏の3地区において、住民とともにコミュニティパントリー（地域食料庫）を延べ6回実施し、新型コロナウイルス感染拡大の影響で収入を失った路上の子ども・若者、及びごみ処分場付近で生活する420世帯（約2,520名）に対して、食糧・衛生用品等を配布しました。
- 食堂と提携し、路上の子ども約17名を対象に、栄養バランスの取れた食事を合計47日間、1日2回提供しました。
- 2021年8月に施行されたロックダウン（都市封鎖）前に、マニラ首都圏の4地区で暮らす路上の子ども・若者、ごみ処分場付近で生活する104世帯に対して、食糧（米・缶詰・干し魚・乾麺・卵）を提供しました。

- カリエメンバー9名が、合計64名の路上の子どもに対して、新型コロナウイルス感染予防の啓発活動、及び学用品一式（鉛筆・消しゴム・ノート等）とお絵描き道具を配布しました。

＜ミンダナオ島＞

- ミンダナオ島ムスリムミンダナオ・バンサモロ自治区（BARMM）における平和構築に関する新事業の立案をするために、マギンダナオ州北部4町（マタノグ・バリラ・ブルドン・パラン）の町役場や学校を訪問しニーズ調査を実施しました。また、現地教育省や内務省への聞き取り調査も実施しました。

2. ジブチ共和国

＜ジブチ国内3つの難民キャンプにおける活動＞

- 子どもたちのライフスキル（生きる力）を育てる「子どもの広場」を、マルカジ難民キャンプでは人数制限を設ける等の感染対策を講じた上で実施し、アリアデ難民キャンプ、及びホルホル難民キャンプでは訪問型で実施しました。延べ7,846名の子どもが参加しました。
- 子どもたちの状況を把握し適切な対応をするため、家庭訪問1,116件と、子どもや保護者に対するカウンセリングを11件行いました。

- 「子どもの広場」の運営を支える青少年ボランティア（アニメーター）に対して、子どもの権利等に関する研修を7回実施し、延べ80名が参加しました。
- 子ども自身が司会進行を務める「子ども議会」を6回実施し、延べ132名の子どもが参加しました。
- 新型コロナウイルス感染予防策等についての啓発研修を、178回実施し、延べ1,440名が参加しました。
- 難民キャンプで子どもたちが直面している問題等を話し合うため、保護者会議が3回開かれ、延べ37名が参加しました。
- マルカジ難民キャンプにおいて「アフリカ子どもの日」イベントを開催し、オボック市、及び難民キャンプの子どもや保護者69名が参加しました。

＜ホルホル難民キャンプにおける活動＞

- 子どもの保護に関する情報を集め、プライバシーが守られた環境でカウンセリングを実施するため、「子どもの保護センター」の建設を2021年8月より着工しました。また、新しい「子どもの広場」の建設も同時期に開始しました。（※現在の「子どもの広場」は地面が整備されておらず怪我につながりやすかったり、屋根がなく熱中症を引き起こしやすい等の課題があるため）

3. 能力強化事業（日本）

- 高校～大学までの教育機関で、フィリピンの路上の子どもたちやパヤタスのフェアトレード生産団体、イエメンやジブチの紛争や難民についての講演を、オンラインで3件、対面で1件、合計131名に対し行いました。また、オンラインイベントに参加し、約100名の方々にご視聴いただきました。
- NGO相談員として、オンライン講演を4件実施し、教育機関やNGO職員等の91名に、SDGsに関する研修や、NGOの活動についてお話しました。また、組織運営等の相談やフェアトレード等に関する質問を、計506件受付けました。
- 今年度から、動画制作とオンラインによる交流会に形を変え、国際交流企画TULAY PROJECTを実施し、10月には3回にわたって、フィリピンの路上の子どもと日本の高校生との交流会を行い、6校（45名）が参加しました。
- 日本事務局にてインターン生を5名を受け入れ、主に、フェアトレード事業の補佐・街頭募金活動の実施・募金箱の設置等を担当しました。
- オンラインによるスタディプログラムを2回実施し、合計33名が参加しました。

4. ボランティア・寄付活動推進事業（日本）

- 書き損じハガキ(計12,587枚)や、古本や不要品(寄付件数47件)の収集活動を行いました。
- 2021年10月末時点のマンスリーパートナーは297名で、今期、マンスリーパートナーに新規でお申し込みをいただいた方は11名でした。
- 8月にフェアトレード商品のオンラインショップ 「Kaya ko!」 を開設しました。また、Facebookのフィリピンページを立ち上げました。
- 街頭募金を4回実施し、延べ65名のボランティアに参加いただき、約370名の方々が募金してくださいました。
- 今期、延べ58名が事務局ボランティアを行ってくださいました。

5. 国内自然災害（長野）

- 長野県福祉協議会、及び福祉事業所と連携して、長野市長沼地区において、被災者の心のケアに資する活動として、写真洗浄・返却活動を実施しました。
- 7月末で福祉事業所との連携は終了し、ボランティアの主体で作業を継続しています。

特集｜フィリピン

「子どもの家」卒業生からのメッセージ

2021年9月末、アイキャンが運営する児童養護施設「子どもの家」で5年半過ごしたロナルドくん（仮名）が家族との再統合により、「子どもの家」を卒業することになりました。これまで多くの応援をいただいたみなさまへ、卒業メッセージをご紹介いたします。

「子どもの家」へ入るまで

僕は10人兄弟の下から3番目で、路上で家族と暮らしていました。小学校1年生から、路上で仕事を始めました。頑張っても、1日に50ペソ（約100円）ほどしか稼げなかったので、いつもお腹が空いていました。そんな生活を変えたいと思っていた時、アイキャンと出会いました。アイキャンが楽しく読み書きを教えてくれたりして、僕は学校に通いたいと思うようになりました。そこで、アイキャンスタッフに「学校に通いたい。路上から抜け出したい」と伝えました。その結果、短期保護施設を紹介してもらい、学校に通えるようになりました。そこでは1年ぐらい過ごしましたが、その間にアイキャンの「子どもの家」が開所したので、僕はまたアイキャンと再会することができました。

「子どもの家」での生活

「子どもの家」では、毎日美味しいご飯を3食食べることができて、お金や物を盗まれる心配なく、安心できる場所で寝ることができます。アイキャンスタッフも優しくて、新しい家族を手に入れた気分でした。時々、僕が規則を破って怒られたこともありましたが、アイキャンスタッフは僕に敬意をもって接してくれました。学校では、鼓笛隊やボーイスカウト等の課外活動にも参加させてもらいました。友達もたくさんできたし、成績優秀で表彰されたこともあります。

一番の思い出

アイキャンが実施しているスタディーツアーで、日本人の方々と会うことができて嬉しかったです。一緒に行った遠足で、グループに分かれ、自分自身や家族のことを共有し合ったことが印象に残っています。僕の路上での経験を、みんな真剣に聞いてくれて、泣いてくれる人もいました。僕も、日本の方の話を聞くことができて新鮮でした。夜はみんなでプールで遊びました。言葉が通じないこともあったけど、一緒にプールに飛び込んだりして遊んだことが今でも忘れられません。

学んだこと

「子どもの家」では、一時の感情に左右されず、将来のことを考えて、毎日の行動を選択することの大切さを学びました。勉強せずに毎日遊んだ方が楽しいし、学校に通わず仕事をした方が自分の好きなものを買えます。でも、僕は将来安定した職に就いて、お母さんや兄弟を支えたいという夢があります。その夢を叶えるためには、将来を意識した行動をしていくことが必要です。このことは、退所した後も、ずっと心に残り続けることです。

これからのこと

今後も一生懸命勉強することを約束します。自分の将来のための計画を続けていくことを約束します。学校を卒業して、夢をかなえるために最大限努力することを約束します。どんなに大変でも最善を尽くします。また、「子どもの家」に戻ってきて寄付をしたり、自分にできることで「子どもの家」の役に立ちたいです。そして、これからもアイキャンの一員でありたいです。

事業地の声

フィリピン

「子どもの家」に今期新たに入所した2名から、「子どもの家」に入るまでのことや、入ってからの生活の変化等についての声が届きました

カイ君（仮名）12歳

僕はおばあちゃんに育てられました。でも、おばあちゃんは病気をもっていたので、僕の面倒はあまり見ることはできませんでした。だから、幼稚園を卒園してからは学校に行ったことはありません。僕は毎日、路上で友達と遊んだり、物乞いをしてお金をもらったりして、路上で寝ることもありました。

路上で寝ていた時に、福祉課の職員に助けられて、政府の施設で暮らすことになりました。施設では、年齢の大きいお兄さんからのいじめがありましたが、職員の人に言っても何も変わりませんでした。そこで1年くらい過ごした後、「子どもの家」に移動することになりました。

「子どもの家」での生活はとても快適です。勉強もできて、同年齢の友達と庭で遊ぶことができます。ご飯も美味しいし、お兄さんやスタッフも優しいです。何よりここでは子ども同士のいじめがなく、みんな仲良しです。

マイケル君（仮名）10歳

僕が小さい時にお父さんは家を出て行ってしまい、お母さんと新しいお父さんと暮らしていました。学校は小学校1年生まで通っていたけど、途中で通わなくなって、路上で物乞いをしていました。それから、お母さんが違法ギャンブルで警察に捕まってしまい、新しいお父さんと2人になりました。ある日、お父さんの自転車を勝手に借りて出かけたら、自転車が盗まれてしまいました。僕は、お父さんに怒られるのが怖くなって、それから家に帰っていません。

路上で生活している時に村役員に保護されて、政府の施設で半年暮らし、「子どもの家」へ移ることになりました。

学校にはずっと通いたいと思っていたので、今、英語や算数を学ぶことができて嬉しいです。この間、まだ時間はかかるけど、1桁の足し算ができるようになりました。これから、新しいことをたくさん学んで、友達も作りたいです。

パートナーの声

マンスリーパートナー様より

森本　弘美様

ボランティアとして関わるようになって、１年程経ちます。当時、世界の貧困について書かれた本を読んだことがきっかけでした。「アイキャン」の名称の由来の通り、どんなに小さくても自分にできることをするのが大切だと感じ、現在こうしてボランティアとして活動しています。また、新型コロナウイルスの影響でボランティアの受け入れが停止している間にも何か力になれることはないかと、マンスリーパートナーにも申し込みました。貧困問題を解決する活動に少しでも携われていること、そしてスタッフの皆さまがいつもあたたかく迎え入れて下さることに感謝しながら、これからも継続して応援をしていきたいです。

ODAについて知ろう！

ODAとは**O**fficial **D**evelopment **A**ssistance（政府開発援助）の略で、国際協力活動のための公的資金のことです。世界には、紛争・貧困・食糧不足・学校へ行けない等の教育問題の他、近年では気候変動・大規模自然災害・感染症等の問題が山積みになっており、ODAはこうした様々な課題解決のために役立てられています。

例えばアイキャンでは、ODAを活用して・・・

過去の事業において、ジブチのマルカジ難民キャンプで
「子どもの保護センター」と「多目的センター」を建設しました！

現在は、ジブチのホルホル難民キャンプで
「子どもの保護センター」と「子どもの広場」を建設中です！

もっと知りたい方は、NGO相談員を活用ください！

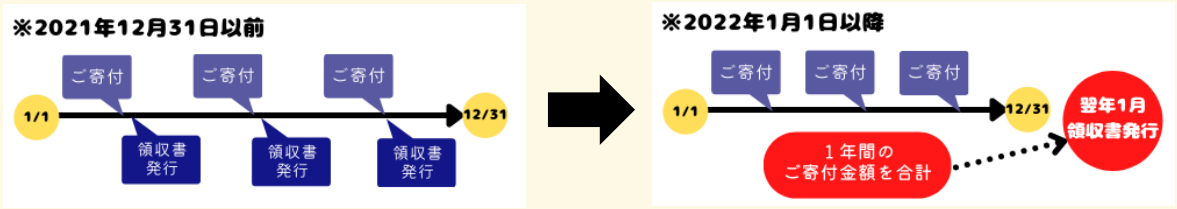
「NGO相談員」とは外務省の委託により日本のNGO団体が、国際協力やNGOの運営等について、市民の皆さまの質問に答える制度です。同制度では国際協力への理解促進のため、国際協力イベント、学校等において講演や相談員ブース出展を行う「出張サービス」も実施しています。コロナ禍ではオンラインでの対応も可能ですので、お気軽にご相談ください。

外務省 NGO相談員

事務局からのお知らせ

【重要】寄付金領収書に関する大切なお知らせ

これまで、寄付金領収書をご入金の都度発行しておりましたが、2022年1月1日以降のご入金につきましては、1年分の領収書を毎年1月に送付することとさせていただきます。



つきましては、2022年1月1日から2022年12月31日までにアイキャンへのご入金が確認できたご寄付分の領収書は、確定申告がはじまる前、2023年1月下旬に皆さまのお手元に届くように、発送をいたします。

◆クレジットカード決済の場合：ご寄付のお申し込みの翌月末にアイキャンへ入金されます。そのため、12月分のご決済は、翌年の入金分として扱います。

◆口座振替の場合：引落日の翌月月初にアイキャンへ入金されます。そのため、12月分のお引き落としは、翌年の入金分として扱います。

団体としてより適切に領収日管理をするため、また領収書発行にかかる工数削減により大切なお気持ちをより多く子どもたちとの活動に使わせていただくために、皆さまのご理解をいただけますと幸いです。

特定非営利活動法人アイキャン（ICAN）

アイキャンは、一人ひとりの「できること」を持ち寄り、貧困・紛争・災害による影響を受けた子どもの能力向上や地域の環境改善に取り組む国際協力NGOです。

住所:　〒460-0011　愛知県名古屋市中区大須3丁目5-4 矢場町パークビル9階
TEL/FAX:　052-253-7299（火～土　12:00～19:00）
MAIL：info@ican.or.jp　　WEB：https://ican.or.jp/　@ICAN_NGO

WEB QR